

経 済 民 生 常 任 委 員 会 記 録

平成 30 年 7 月 11 日(水)午後 0 時 58 分～午後 1 時 30 分(9 階 908 会議室)

○出席委員(9名)

委 員 長	石原洋三郎	副委員長	誉田 憲孝
委 員	佐々木 優	委 員	後藤 善次
委 員	斎藤 正臣	委 員	黒沢 仁
委 員	佐久間行夫	委 員	山岸 清
委 員	渡辺 敏彦		

○欠席委員(なし)

○市長等部局出席者(なし)

○議 題

「地域密着型プロスポーツチームとの連携による地域の活性化に関する調査」

- (1) 今後の進め方について
- (2) 調査の進め方(当局説明)について
- (3) その他

午後 0 時 58 分 開 議

(石原洋三郎委員長) それでは、ただいまから経済民生常任委員会を開会いたします。

議題は、お手元に配付の印刷物のとおりです。

地域密着型プロスポーツチームとの連携による地域の活性化に関する調査についてを議題といたします。

初めに、今後の進め方についてを議題といたします。

正副委員長手元で、今後の進め方について、スケジュール(案)及び調査を進めるにあたっての調査のイメージを作成いたしましたので、それらの資料に基づき説明いたします。

まず、A 3 横の資料、調査のイメージのほうからごらんください。今後の進め方や調査の方向性について、正副委員長手元で協議させていただき、まとめたものがこちらの資料でございます。

まず、一番上からでございますが、1、調査目的をごらんください。前回配付の調査(案)にも記

載されている事項を再掲させていただいております。内容は、前回確認したとおりですので、こちらは後ほどご確認ください。

次に、そこから右の2、調査に取り組む意義をごらんください。今回、本調査について委員会で取り組む意義を正副委員長手元で整理させていただいております。大きく分けると3点で、まず1点目が福島市公共施設の戦略的再編整備検討委員会の議題として挙げられていることでも注目され、現在話題を集めているスタジアム整備にも関連してくるテーマであり、調査項目としては旬であるという点。

そして、2点目に、現在本市においても地域密着型プロスポーツチームが存在しているが、まだまだ認知度も低く、市民に定着しているとは言えない状況が何年も続いていることと、現在県内他市、特に郡山市やいわき市でも地域密着型プロスポーツチームの活動が活性化してきており、本市においてこのまま市民への定着が進まないと他市への地域資源流出といった可能性も危惧される状況にあるという点から、取り組む意義づけをさせていただきました。

また、3点目として、ここで議会が積極的に調査テーマとすることで、市内外に本市の持つ貴重な地域資源の一つであることを発信するという違った角度からの役割も果たせるのではないかと考えたところであります。

委員の皆様におかれましては、さまざまお感じになることはあるかと思いますが、このような観点から、今回調査する意味をご理解いただき、前向きに調査願えればと思います。

次に、中段左側、3、調査の視点と方向性をごらんください。正副委員長といたしましては、今回調査を進める中で、地域密着型プロスポーツチームの活動が地元で資料記載のさまざまな地域活性化効果をもたらすことや、スポーツチームが持つ高い公益性というものを確認し、行政が連携する意義を明確にした中で、行政としても積極的に活用し、またそれら活性化効果を高めていくため、どのような支援や連携が有効かを研究し、提言としてまとめていきたいと考えております。

今回の調査については、自治体の限られた財源や職員の人員の中で、官の力だけではなく、地域密着型プロスポーツチームという民の力も利用した相乗的な地域の活性化を図るための手法を研究するという視点を取り入れていきたいと考えているところであります。

しかしながら、調査を進めるにあたっては、点線枠の中でございますが、特に①、本市が地域の活性化を図るために地域密着型プロスポーツチームの取り組みに対してどのような連携、支援の可能性があるのかを調査するものであり、チームの経営課題を聴取し、それらを解決するものではない。②、本調査においては、スタジアム建設をはじめとした公共施設の再編などハード整備にまで議論が及ぶと所管を超える可能性があるため、具体的なハード整備までには踏み込めないという2点に注意しながら、調査がぶれないよう進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

次に、右側、4、調査の手法をごらんください。今回の調査も、当局説明、参考人招致、行政視察の大きく3つの手法を使い、調査を進めたいと考えており、まずステップ1で商工観光部観光コンベ

ンション推進室による当局説明により、本市の連携体制などの現状把握と課題の整理を行いたいと思います。

次に、ステップ2で参考人招致を実施し、地域密着型プロスポーツチームの活動理念や公益性の確認、本市におけるチームの活動内容や今後の事業展望などの現状把握を行い、参考人の想定としては記載の本市地域密着型プロスポーツチームの関係者や地域密着型プロスポーツチームの上部組織関係者、あるいは後援組織、ファンクラブ関係者を想定しております。

最後に、ステップ3で行政視察を実施し、他市における取り組みの先進事例調査を行い、提言につながるヒントを聴取したいと考えております。

なお、行政視察の視察先選定の視点としては、①、大規模自治体と認知度が全国的に高いプロスポーツチームによる連携手法を見て、人口規模も大きく、資金面で潤沢な場合においても、地域に密着した活動を重視して、よりきめ細やかに地道に実施している実態から定着活動の重要性を把握すること。②、本市と同規模の自治体と全国的な認知度も同程度のプロスポーツチームによる連携手法を見て、本市の実態に即した形での実効的な先進事例の調査するという2点を想定しております。

これらの調査を実施し、調査のポイントに記載の本市がプロスポーツチームを支援してきた理由、意義、地域密着型プロスポーツチームの持つ高い公益性と今後の可能性、本市における地域密着活動の状況、地域密着型プロスポーツチームが立地することの重要性、優位性などの要点を押さえながら、5番目の提言のまとめ（例）に移ってまいりたいと考えております。

こちらに記載の項目は、あくまで例でありますので、委員会での調査経過、まとめの段階における到達点によっては変わってくることが想定されます。今のところの想定として、①、スポーツホームタウン推進協議会による支援の可能性、②、全庁的に積極的にチームを活用する仕組みづくり、③、インバウンド、スポーツツーリズム、スポーツコミッションへの発展可能性、④、東京オリンピック・パラリンピックで醸成された市民の一体感やボランティア機運の受け皿としての可能性といったことで正副委員長手元で整理をしたところであります。

イメージの説明については以上であります、この調査のイメージを念頭に、続けて経済民生常任委員会のスケジュール（案）をごらんいただければと思います。こちらは、来年3月委員長報告をめぐりに、おおよそのスケジュールを表にした日程表でございます。前回6月28日の委員会で今回の調査テーマが正式に決定し、本日の7月11日の委員会を迎えているところであります。

また、次に7月23日ということで日程のほうを記載しておりますが、そこで早速当局説明を実施したいと考えておりまして、その後8月以降、月2回程度委員会を開催し、8月と10月に参考人招致、11月には行政視察を実施しながら、3月までに計17回程度委員会を開催していくという日程となっております。

なお、8月と10月の参考人招致については、どなたを実際お呼びするのかはまだ具体的に調整しておりませんが、先ほどのA3イメージ資料の調査の手法から見ても、正副委員長としては最低でも2

回は実施し、意見を聴取する必要があるだろうとの考えから、記載させていただいているものでございます。

また、11月の行政視察については、今のところ5日から9日で幅を持って皆様のご予定を押さえていただいておりますが、こちらは視察先など調整がつき次第、早目にスケジュールをお示しできればと考えております。

なお、本日お示ししました調査のイメージ図やスケジュール（案）については、おおよその目安でございますので、今後の調査経過により回数がふえたり、調査手法が追加になるなど変更の可能性もございますが、基本はこの流れに沿って調査を進めていきたいというのが正副委員長の考えでございます。特に前回ですと6月という話もあったのですが、まずほかの何か委員会も3月を目標にされているということでありますので、3月を一応目標にしている、その流れによって委員長報告という時期は確定していくかなと思っております。

これらの調査の流れやスケジュールについて、皆様から何かご意見ございますでしょうか。

【「特にありません」と呼ぶ者あり】

（石原洋三郎委員長）なければ、このスケジュールや方向性を基本に進めてまいりたいと思います。よろしく願いいたします。

済みません。確認ですけれども、今の異議なしということによろしいですね。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

（石原洋三郎委員長）次に、調査の進め方について、当局説明についてを議題といたします。

今ほど、前の議題の中で、7月23日に当局説明を実施することでスケジュールはご了承いただきましたが、ここで正副委員長で考えております聴取事項を委員の皆様にご確認いただくため、当局説明（案）をごらんください。

それではまず、こちらを書記に読み上げさせます。

（書記）それでは、お手元の当局説明（案）を読み上げさせていただきます。

1、目的でございますが、商工観光部より県内及び本市の地域密着型プロスポーツチームの実態やそれらがもたらす地域活性化効果を確認するとともに、これまでの本市におけるスポーツホームタウン推進事業の取り組み状況等を聴取し、事業を通して得られた効果や課題、さらには今後の展望について調査をする。

2、調査日時、平成30年7月23日月曜日、午後1時から午後3時、1時間30分程度ということで、説明60分、質疑30分、当局説明終了後、委員のみで意見開陳。

3、場所、市役所9階の908会議室となっております。

4、聴取内容、（1）、県内及び本市の地域密着型プロスポーツチームの現状について、①、県内他市に拠点を置くプロスポーツチームの状況、②、本市に拠点を置くプロスポーツチームの実態、③、地域密着型プロスポーツチームが本市にもたらす地域活性化効果。（2）、本市スポーツホームタウ

ン推進に向けた取り組み状況と課題について、①、県、民間企業等における本市プロスポーツチームの支援、連携体制について、②、これまでの本市スポーツホームタウン推進事業の取り組み状況、③、取り組みを通して得られた効果と課題及び今後の展望。

以上でございます。

（石原洋三郎委員長）正副委員長手元で整理しました当局説明の聴取事項でございますが、大きく2点に分かれております。

まず、1点目が（1）、県内及び本市の地域密着型プロスポーツチームの現状についてということで、最初に①で県内他市に拠点を置くプロスポーツチームの状況を確認したいと考えております。

次に、②で本市に拠点を置くプロスポーツチームの実態として、実際に本市にどのようなチームが存在するかを、全国的に同様のスポーツチームを有する自治体はどの程度あるのかなども含めて聴取したいと思っております。また、本市スポーツチームの市内での練習会場や試合会場、市内外での試合状況、成績、観客動員などの活動状況もあわせて調査したいと考えております。

そして、次の③で地域密着型プロスポーツチームが本市にもたらす地域活性化効果として、一般的に地域密着型プロスポーツチームに期待される活性化効果と実際に本市へもたらされた活性化効果について、市当局の考えを聴取していきたいと考えております。

そして、2つ目が（2）、本市スポーツホームタウン推進に向けた取り組み状況と課題についてということで、まず①で県や民間企業等における本市プロスポーツチームの支援、連携体制について現状を確認し、次に②として、これまでの本市スポーツホームタウン推進事業の取り組み状況について確認したいと思っております。本市でプロスポーツチームを支援、連携することとなった経緯及び理由、これまでの本市におけるスポーツホームタウン推進事業の実績を、商工観光部以外の部局で連携している事例なども含めて、市のかかわり方を聴取したいと考えております。

そして、最後に③で取り組みを通して得られた効果と課題及び今後の展望を確認していきたいと考えております。

簡単に説明させていただきましたが、こちらについて皆様からご意見ございますでしょうか。

（山岸 清委員）この当局から説明を受ければわかることなのだけでも、今のところ福島はサッカーと、福島県か、サッカーとバスケットと野球がある認識しているのですが、福島市はそのうちどれなの。サッカー。

（石原洋三郎委員長）サッカーのみというふうに私は聞いていたのですけれども。

（山岸 清委員）それだけ、わからないで聞いているのもあれだから、わかりました。

（石原洋三郎委員長）サッカーは、あといわきにもあって、あとバスケは郡山なのですね。

（山岸 清委員）野球は。

（佐久間行夫委員）郡山。

（山岸 清委員）了解。では、サッカーだな。

（斎藤正臣委員）今までスポーツホームタウン推進事業というのは、本市のほうではやられていたのですか。どういうことを、やっていたか、やっていないか。やっていたのだったら、得られた効果とか課題なんかは聴取できるのでしょうかけれども。

（石原洋三郎委員長）基本はやっていたに聞き及んでいるのですけれども、観光コンベンション推進室のほうで所管をしているということではあるのですけれども。

（斎藤正臣委員）わかりました。

（佐々木優委員）聞く内容として、福島市で例えばスポーツ人口の推移みたいなのを今まで持っているのかというのを知りたいなと思うのですけれども。

（石原洋三郎委員長）スポーツ人口の推移。

（佐々木優委員）そうです。

（石原洋三郎委員長）わかりました。それは事前に……。

（佐久間行夫委員）スポーツ人口。

（山岸 清委員）どこからどこまでやったらいいか。

（佐久間行夫委員）市民体育祭の参加者数とかだったらわかるでしょう。

（佐々木優委員）チーム数とか。

（後藤善次委員）学習センターで把握できる範囲とかになってくるのではないの。

（佐久間行夫委員）県北体育協会とか市の体育協会でも全部つかんでいるよ。

（石原洋三郎委員長）佐々木委員、済みません。一応投げかけようとは思っているのですが、ただ分野的に、もしかすると保健体育課なので、教育委員会で文教のほうになってしまうかもしれないのですが、一応事前に投げかけてはおきたいと思います。

（佐久間行夫委員）今までスポーツタウン構想って福島市でもやっていたけれども、今までどんなことをやってきたと、これを聞かれるのだろうけれども、どれだけの予算をかけてきたか、その辺もちよっと系統でわかるようにしてもらったほうがみんなもわかるよね。

（石原洋三郎委員長）はい。

（佐久間行夫委員）結構金使っているよね。

（後藤善次委員）観光コンベンションの絡みだろうね。

（佐久間行夫委員）そこがいいのかどうかだよ。

（石原洋三郎委員長）いろいろと文教とかかわってくるようなところもあるかと思いますが、観光コンベンションという視点を切り口に取り組んでいきたいと思っております。

（後藤善次委員）このホームタウンのプロスポーツチームの役割に対して、行政とか市がどこまで介入して、方向性をどんなところまで私たちが意見を言っていけるのかという、何でもかんでも私らが言ったから、方向性変わるとか、それは営業的なこともあるでしょうし、あと自分たちの持っている将来の方向性みたいなものもあるでしょうから、その辺のどんな提言ができて、それをもとにどんな

ふうに動くことが可能なのかという、そういう範疇というのかな、その辺もちょっと知りたいなと思っていたのです。どういうところまで私らは提言できるのかというのは。

（石原洋三郎委員長）そこは、後藤委員のおっしゃるとおりでありまして、ちょっと範疇がいろいろ模索していくようなところもあるかとは思いますが、お手元の資料のような形で提言できれば思っているのですけれども、その踏み込み度合いというのも、この調査をしていく中で、皆様のご意見いただきながら提言に結びつけていければと思っております。

（渡辺敏彦委員）プロスポーツの試合の誘致とかって頑張ってるのかな。例えばあづま球場なんか福島市にあるのだから、試合やってくださいよとか、オリンピックは来るようになったけれども、そういった努力は、協議会でなくて、こっちでできるでしょう。人いっぱい来るから、物売れるとか、そういった努力、試合の誘致の努力とか何かというのはどこですのだからわからないけれども、執行部ですののかな。そういう努力はしているのかいと。例えばいろんなことを今度体育館でできるのだけれども、プロでも何でもいい、プロでなければだめなのだな。そういう試合を誘致することによって町なかの活性化するような努力ってどこですのだろうと。あなたのところでやるのかいと聞いてみるのもいいのでない。実際何ぼ来ているのだから知らないけれども、あちこちでの開催になってしまうでしょう。だから、何試合かに1回しか来ないでしょう、福島には。

（佐久間行夫委員）それはそうだ。アウエーもあるしね。ホームと。

（渡辺敏彦委員）俺も新潟まで行ったことあるよ。

（黒沢 仁委員）アウエーがあるから、ホームタウンだ。

（渡辺敏彦委員）話は変わるけれども。

（石原洋三郎委員長）今渡辺委員がおっしゃったように、そういう誘致活動というような取り組みが果たして市議会としてできるのかというところも含めながら。

（渡辺敏彦委員）無理くりこれくっつけてしまったから。無理くりくっつけていろいろ調査していかなければならないでしょう。

（後藤善次委員）相撲の場所がえとは違いますものね。

（佐久間行夫委員）巡業は。

（後藤善次委員）巡業みたいな感じではないですものね。

（佐久間行夫委員）日本相撲協会がやっていた。あと、この前の日米のソフトボールは読売新聞社が主催でやっていました。ただ、福島市がそのホームタウン、ユナイテッド福島との協定というのはあるのだと思うね。その協定ってどういうことを書いてあるのか、実際は見たことないので、そのことの中身が先ほど後藤委員の言うのにきちんとした説明がつくようになっていて、どうやってかわるのかが協定書の中にあるのだと思うので、そこをわかるようにしたいなと、まずは。

（石原洋三郎委員長）わかりました。その協定があって……。

（佐久間行夫委員）あると思うから……。

（石原洋三郎委員長） どういうものなのかという。

（佐久間行夫委員） 予算化して、いろいろ何とかするときにお金払って、今何百万円だか、応援したこともあったのです。予算の裏づけも必要。

（黒沢 仁委員） 大変難しい項目といえば項目なのだけれども、結局いわゆる民と官ですね。だから、支援のあり方として金額的な部分というよりも、いわゆるソフト的な支援のあり方、あるいは金額的支援も視野に入ればハードな部分、このソフトとハードの両面から探りを入れていくなんていう、こういうふうな手法もいいのでないかななんてちょっと思いましたので、意見しました。

（石原洋三郎委員長） 今まで光が当たったところでない分野でもありますので、調査を進めていく中で、市議会として、よりよい方向性が見出せればと思っておりますので、ぜひ皆様のお知恵なり、ご意見をいただければと思います。

（渡辺敏彦委員） 例えばこれサッカーしかないでしょう。山岸さんは野球好きでしょう。野球来ればいいけれども、サッカー来たのでは行かないとかという人いっぱいいるのだよね。ただ、我々はユニテッドの会員にさせられて、銭払っているのだけれども、役所で何をやっているのかというのは、職員の人も会員になっているのかどうか。あとは、福島で試合があったらば、職員、おまえら応援に行けよという話をしているのかな。みんなで盛り上げようと我々騒いでいても、職員の意識も何も含めてトータル的に、これ好き嫌いもあるだろうけれども、その辺を役所として職員はどう対応しているのだとか、これは微妙なところなのだけれども、担当が。これは、役所の職員だって出ていけば活性化する、まちの中という理屈で、その辺はどういった対応しているのか。

（黒沢 仁委員） 市役所で誰か応援団というの、応援団長みたいな人誰かいたよね。市役所で職員。何といったつけ、あれ。農林整備課にいた。

（石原洋三郎委員長） ほかがございますでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

（石原洋三郎委員長） なければ、このとおり進めてまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

（石原洋三郎委員長） 最後に、8月の委員会の日程調整を行いたいと思います。

8月であります、今のところ上旬と下旬に2回ほど開催したいと考えております。1回目については、8月7日火曜日の午前もしくは午後で行いたいと考えております。

（佐々木優委員） 午後でお願いできたら。

（黒沢 仁委員） 1時で。

（石原洋三郎委員長） では、1時半ですか。

（黒沢 仁委員） 1時でいいです。

（石原洋三郎委員長） では、1時で。

（後藤善次委員） 参考人ね。

（石原洋三郎委員長）ごめんなさい。当局説明は7月23日月曜日の午後1時からです。

8月7日は、意見開陳のまとめと調査の進め方の確認であります。

また、2回目については、今のところ想定ではありますが、参考人招致をできればと考えております。参考人との協議にもよりますが、とりあえず29日午後と30日午後の両日を確保していただければと考えております。

（山岸 清委員）1時ね。

（石原洋三郎委員長）両方とも1時で。

（黒沢 仁委員）29と30ね。

（石原洋三郎委員長）はい。

（佐久間行夫委員）29か30。

（石原洋三郎委員長）そうです。29か30です。

（山岸 清委員）これは、7月の下旬のときに発表できるね、どっちになるかは。

（石原洋三郎委員長）そうですね。7月23日までには大丈夫ですね。

ほかに皆様から何かございますでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

（石原洋三郎委員長）なければ、以上で経済民生常任委員会を閉会といたします。

午後1時30分 散 会

経済民生常任委員長 石原 洋三郎